



● 館外普及事業
アーティストとつくろう！
H18 - H28

アーティストと学芸員がともに学校や地域に出向きワークショップを行うこの事業は、平成13年度にスタートした。初期には「アーティストと学芸員の連携講座」、平成20年度からは「アーティストとつくろう！」として、年間4回程度行ってきた。現在活躍中のアーティストから直接レクチャーを受け、ものの見方や作品制作のテクニックを学ぶことができる他、芸術家という職業、作家の人柄について知る機会ともなる。講座日時が確定した後、会場下見を含め最低1回の打合せを行う。基本的に学芸員とアーティストで考案したプログラムを行うが、“文化祭の作品作り”や“色塗りが上手になる”など明確な目的がある場合は、それに合わせたプログラムを作成している。

館外普及事業 「アーティストとつくろう！」

1	2	3	4	5
不思議な オブジェをつくろう	手のひらの 世界	見えないものを 描いてみようー味覚編	見えないものを 描いてみようー嗅覚編	錆染め体験 講座
6	7	8	9	10
気になる錆 in 気高中学校	身から出た錆	さまざまな画材で 表現しよう！	アーティストの世界に 触れてみよう！	銅板による ペンダントの制作
11	12	13	14	15
銅板による 壁飾りの制作	まほうのこなかで 絵を描こう！	山陰の手仕事と その魅力 (Vol.1)	作品鑑賞&作家さんの 技法を体験してみよう	山陰の手仕事と その魅力 (Vol.2)
16	17	18	19	20
旅するムサビ in 鳥取	アーティストさんと 作品鑑賞しよう！	作家と一緒に みる、つくる	旅するムサビ in 大山	彫刻鑑賞& 作品制作
■	■	■	■	■

ーアーティストと学芸員の連携講座ー

館外普及事業

1

平成 18 年度「不思議なオブジェをつくろう～型どり石膏オブジェの制作」

講師：石谷孝二氏（鳥取市在住）

日時：2006 年 5 月 23 日（火） 15:00 ～ 15:30 県立鳥取養護学校
 2006 年 11 月 1 日（水） 12:30 ～ 15:30 県立鳥取聾学校
 2006 年 12 月 15 日（金） 11:30 ～ 14:55 鳥取市立青谷小学校
 会場：鳥取養護学校、県立鳥取聾学校、鳥取市立青谷小学校
 対象：鳥取養護学校 10 名
 鳥取聾学校 中等部 4 名
 鳥取市立青谷小学校 第 4 学年 26 名（計）40 名

鳥取大学教授・鳥取大学附属小学校校長で国画会会員の石谷孝二氏を講師に、粘土でオブジェを作る内容で行った。実施した 3 校のうち、2 校が特別支援学校であった。そのため、作家が授業を行うことでの教育効果をねらう場合、コミュニケーションをとることに力を注ぐ必要があり、作家が得意とする制作テクニックや専門性の高い話をするところまで行き着けないことがほとんどであった。もし、同種の学校で講座を開く場合、生徒より教師に対して講座を開いた方が効果的だと感じた。



鳥取養護学校



鳥取聾学校



青谷小学校

日時：2007年6月29日（金）10:45～12:20 米子市立河崎小学校
 2007年11月9日（金）13:30～15:20 大山町立大山小学校
 2007年10月24日（水）10:50～12:25 大山町立大西小学校
 2007年7月13日（金）13:40～15:30 大山町立大山中学校

会場：米子市立河崎小学校、大山町立大山小学校、大山西小学校、大山中学校

対象：河崎小学校 第5学年 60名
 大山小学校 第6学年 17名
 大山西小学校 第3学年 31名
 大山中学校 第3学年 54名 計162名

カエル工房の溝氏を講師に、小さな木製台の上に樹脂粘土で好きな物を作って配置し、自分の世界を作りあげるといった内容で行った。



河崎小学校



大山小学校



大山中学校



大山西小学校

日時：2008年6月27日（金）10:35～12:10
 会場：鳥取市立宮ノ下小学校
 対象：第4学年 40名

館外普及事業「アーティストとつくりよう！」の第1回目は、ニシオ氏を講師に「見えないものを描く」というテーマで行った。味の記憶を頼りに絵画制作を行うため、ぼんたん飴を準備し、休憩時間にニシオ氏の画集を見ながら試食した。その後体育館に移動し制作を行った。“甘さ”をどのような色、線、形、バランスで表現するのが最も適しているか、様々な例を用いて制作へつなげていった。



ーアーティストとつくろう！ー

平成20年度「見えないものを描いてみよう！～嗅覚をもとにした作品づくり～」

講師：ニシオトミジ氏（鳥取市在住）

日時：2008年11月21日（金）10:35～12:10

会場：若桜町立若桜小学校

対象：若桜小学校5年生 26名 池田小学校 5年生 2名 計28名

本事業では、ニシオ氏を講師に「見えないものを描く」というテーマで行った。五感の中で最も文化的発達が遅れていると言われる「嗅覚」をもとにした絵画制作で、複雑な香りを放つ香水をどのような色、線、形、バランスで表現するのが最も適しているか、様々な例を用いて制作へつなげていった。



ーアーティストとつくろう！ー

平成21年度「錆染め体験講座」 講師：藤原勇輝氏（鳥取市在住）

日時：2009年9月2日（水）11:55～15:10、9月9日（水）11:55～15:10

会場：県立青谷高等学校

対象：「美術2」専攻：2年生 14名 3年生 1名

「美術3」専攻：3年生 8名 計24名

藤原氏は、鉄を素材としながら、物体そのもので作品制作するのではなく、物体表面が変質することで生まれる錆という副産物を利用して制作を行う。いわば物体と周囲の環境が備えている自然力を芸術作品として取り込んでいく創作活動である。

本事業は、作家の作品を画像で見ながら、その制作意図等を聞くことから始まった。1日目は、ベニヤ板にビニールを敷き、その上にTシャツ等の布を置く。裏写りを防ぐためTシャツ内にもビニールを敷いた。完成をイメージしながらTシャツの染めたい位置に鉄片（鉄板）をデザインして乗せる。（※好みで植物などをTシャツと鉄板の間に挟んでも良い）最後にペットボトルに入れた海水をTシャツの上から振りかけると言う手順で行った。2日目には、放置したTシャツから鉄片をはがし、Tシャツを水洗いして完成させた。その後はキャプションを制作し、展示した。



Tシャツに鉄片を並べる（1日目）



鉄片を剥がし菜水洗いする（2日目）

ーアーティストとつくろう！ー

平成21年度 「絵になる錆 in 気高中学校」 講師：藤原勇輝氏（鳥取市在住）

日時：2009年10月15日（木）10：45～12：35、10月23日（金）10：45～11：35

会場：鳥取市立気高中学校

対象：第2学年 75名（制作活動25名）

藤原氏の作品は、鉄を素材としながら、物体そのもので作品制作するのではなく、物体表面が変質することで生まれる錆という副産物を利用して制作を行う。いわば物体と周囲の環境が備えている自然力を芸術作品として取り込んでいく創作活動である。

本事業では、作家の作品鑑賞をした後、1×15mのパネルを製作し、パネルにナイロン袋、障子紙を置き、“地平線上の樹木”をテーマにして、各自が金属片を配置した。配置後、バケツに準備した海水を各自がペットボトルで汲み、作品の上に振りかける。乾燥防止用のナイロンを作品の上にかぶせるという手順で行った。



金属片を配置（1日目）



金属片はがし（2日目）



完成した作品

ーアーティストとつくろう！ー

平成22年度 「身から出た錆」 講師：藤原勇輝氏（鳥取市在住）

日時：2010年9月24日（金）14:00～15:35 鳥取市立賀露小学校

2010年10月6日（水）10：40～12:30 鳥取市立鹿野中学校

2010年12月3日（金）10：40～12：30、13：50～15：40 鳥取市立国府中学校

2010年12月9日（木）13：55～15：45 湖南学園小学校

会場：各校会場

対象：賀露小学校 第4学年 47名

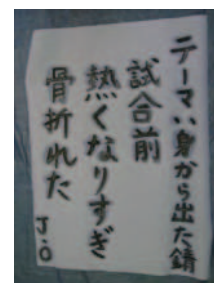
鹿野中学校 選択美術 10名

国府中学校 第2学年 58名

湖南学園小学校 第6学年 18名

藤原氏の作品は、鉄を素材としながら、物体そのもので作品制作するのではなく、物体表面が変質することで生まれる錆という副産物を利用して制作を行う。いわば物体と周囲の環境が備えている自然力を芸術作品として取り込んでいく創作活動である。

本事業では、作家の作品を画像で見ながら、その制作意図等を聞くことから始まった。次に、「身から出た錆」というテーマで、自分自身の生活を見つめ、何を書くかを決定していった。小学校2校、中学校2校、計4ヵ所での実施であったため、発達段階によって「身から出た錆」の捉え方に違いがあった。



日時：2011年6月6日（月）、8月22日（月）、10月3日（月）

会場：八頭町立船岡中学校

対象：選択美術受講者 8名

境港市在住の松本文仁氏を講師として、美術部の生徒とともに制作を行った。松本氏は、ジェッソや銅版、布などの素材を使ったミクストメディアと呼ばれる技法で作品制作を行っている。また、サンダーやバーナーなど、普段の美術の授業等ではあまり使用しない道具も使用している。本事業では、アーティストが介在するからこそ可能となる材料や道具、技法を取り入れ、「選択美術」の受講生という美術に興味があり、少人数であるということを生かした内容となった。最初はなれない道具に戸惑いを見せた生徒もあったが、回数を重ねるごとに表現の面白さを味わっていた。



日時：2011年10月13日（月）11:00～13:00

会場：県立青谷高等学校

対象：美術受講者 15名

境港市在住の松本文仁氏を講師とし、作品を鑑賞しながらそこに込められた思いや制作意図、画材などについて話していただいた。人生のいろいろな出来事に触発され、試行錯誤しながら表現してきた松本氏の話は、生徒の気持ちに迫るものだった。



松本文仁《黒い犬》1986年



松本文仁《おまえたちの白地図》

10

ーアーティストとつくろう！ー

平成24年度 「銅板によるペンダントの制作」 講師：梶村自得氏（米子市在住）

日時：2012年10月9日（火） 10:00～12:40、14:00～16:00

会場：大山町立大山西小学校

対象：第4学年1組 20名 2組 20名 計40名

梶村氏は、陶芸作品の他、木材を使った彫刻作品、銅版や鉄板などを用いたレリーフや小物など、多岐にわたる立体作品の制作を手がけている。「印象や感動を手仕事による作品制作を通して記憶する」ことをコンセプトに、造形素材を限定せず、機に応じて様々な形態で表現している。本事業では、銅版を用いた作品づくりを提案。学校側の実態に応じて、銅版のサイズやの多様な完成形みならず、作業段階、1コマ内の時間配分などについても臨機応変に対応していただいた。芸術家らしい視点（本人にとっては、ごくごく自然なことかもしれないが、発想のヒントとなるものやイメージの発端となる出来事の中には、その人にならでの生活体験があり、そのアーティスト自身の生の言葉を聞くことこそがこの事業の肝と考える。）を是非とも小中学生に伝えて欲しいという博物館側の旨も了解いただき実施した。



11

ーアーティストとつくろう！ー

平成24年度 「銅板による壁飾りの制作」 講師：梶村自得氏（米子市在住）

日時：2012年11月13日（火）5、6校時 13:35～15:25

11月21日（水）5、6校時 13:35～15:25

会場：米子市立加茂中学校

対象：特別支援学級 9名

本事業では、銅版を用いた作品づくりを提案。特別支援学級の美術の授業として行って欲しいという学校の希望に応じて実施した。制作は、作家のこたばを聞き、その制作意図や創意工夫にふれながら、4センチ四方の銅板や銅線など様々な素材を使って行った。第1回目は、デザインしてパーツをつくる作業を行い、第2回目は、パーツをつなぎ合わせて額縁に貼り付けて仕上げをした。また、金槌・たがね・ヤスリ等の工具体験や、コンロを用いた焼き入れの体験ともなった。



ーアーティストとつくろう！ー

平成25年度「まほうのこなで絵を描こう！」講師：フナイタケヒコ氏（鳥取市在住）

日時：2013年6月20日（金）

会場：鳥取市立醇風小学校

対象：醇風小学校 第2学年 54名

鳥取市在住のフナイタケヒコ氏を講師として、醇風小学校 第2学年の子どもたちとともに制作を行った。

子どもたちは前年度、第1学年に、「フナイタケヒコ 絵画の光景」展開催時に来館し、展示室で鑑賞の授業を行っている。その際作品を前にして対話による鑑賞をするだけでなく、制作の方法や素材について作家から直接話を聞く機会もあった。会場での児童の発言や事後の感想からは、作品に興味を惹かれ自分もやってみたいと感じた子どもたちが少なくないことがうかがわれた。そこで、図画工作の時間にフナイ氏を学校に迎えて授業をしたいという担当教員の希望に応えるかたちで、第2学年となった子どもたちに授業をしていただいた。



ーアーティストとつくろう！ー

平成25年度「山陰の手仕事とその魅力」講師：村穂久美雄氏（米子市在住）・山下智香氏（境港市在住）

日時：2013年11月20日（木）9:40～11:35（大山西小学校）

2013年11月21日（金）14:00～15:30（大山小学校）

会場：大山町立大山西小学校・大山町立大山小学校

対象：大山西小学校 第6学年 40名 祖父母 25名

大山小学校 第6学年 第5学年 40名 計105名

鳥取県内在住の工芸家2名を講師に迎え、伝統的な知恵や「わざ」が生み出す工芸品の魅力を学ぶことができる他、工芸家の日々の暮らし、人柄などについて知るきっかけづくりとした。

講師の、村穂久美雄氏は、伝統的な絣織（かすりおり）や筒描き染め（つつがきぞめ）の古布の収集家としても知られる。山下智香氏は境港市内で3年間弓浜絣後継者育成のための研修を受けた。

村穂氏からは、収集品の一部などを紹介しながら山陰の手仕事の特徴やその美についてレクチャーして頂いた。また、会場に糸つむぎ機や突くり機等を搬入し、山下さんの指導で糸にまつわる作業を児童に体験してもらった。



日時：2014年1月22日（金） 13:00～13:45

会場：鳥取市立面影小学校

対象：第5学年 30名 保護者 12名 計42名

鳥取県内在住の美術作家 細川佳成氏を迎え、作品鑑賞を行った。講師は、鳥取市内在住の洋画家で、開催校である面影小学校に作品を寄贈しており、児童や職員は日頃から作品を目にしていた。本レクチャーでは、校内に飾られている作品の他、数点を持ち込み、間近で作品を鑑賞しながらその面白さを味わい、制作の材料や手法、制作意図などについて作家本人からお話を聞く機会とした。制作の材料や手法については、教室で実際に画材を提示し、描く様子を見せるとともに、児童にも体験できるような内容とした。また当日は参観日であったため、保護者にも作品や作家を身近に感じていただけるように心がけた。



日時：2014年6月26日（木） 14:15～15:30

会場：岸本公民館 2階会議室

対象：八郷小学校 第3学年・第4学年 28名 引率教員 2名

松栄学級 65歳～89歳 47名 計 77名

鳥取県内在住の工芸家2名を講師に迎え、伝統的な知恵や「わざ」が生み出す工芸品の魅力を学ぶことができる他、工芸家の日々の暮らし、人柄などについて知るきっかけづくりとした。

講師の、村穂久美雄氏は、伝統的な絣織（かすりおり）や筒描き染め（つつがきぞめ）の古布の収集家としても知られる。山下智香氏は境港市内で3年間弓浜絣後継者育成のための研修を受けた。

村穂氏からは、収集品の一部などを紹介しながら山陰の手仕事の特徴やその美についてレクチャーして頂いた。また、会場に糸つむぎ機や突くり機等を搬入し、山下さんの指導で糸にまつわる作業を児童に体験してもらった。



日時：2015年1月30日（金）

開催校：鳥取市立西中学校

対象：西中学校 第2学年 89名 西中学校教職員 6名

県内教育関係者 9名 計104名

講師：旅するムサビ 武蔵野美術大学 教授 三澤一実氏
武蔵野美術大学 日本画学科学生 6名

「旅ムサ」＝「旅するムサビ」とは、三澤一実氏の指導のもと、学生が主体的に教育現場に足を運び、児童・生徒たちと関わりながら「美術の面白さ」を共感することを目的としている活動である。鳥取県内では初の取り組みとなった。

授業は西中学校第2学年の3クラスで行われた。クラスを3つのグループに分けての鑑賞授業は、ファシリテーターの学生によってスムーズに進行され、生徒は様々な気づきを口にしていた。本物の作品が目前にあること、作家がその自作について語ること、また場合によっては作品に触れられることなどは、生徒にとって特別な環境となった。



日時：2015年11月9日（月） 5校時・6校時 14時～15時40分

開催校：鳥取市立面影小学校

対象：第5学年 1組 34名 2組 34名 計68名

本事業は、アーティストと当館学芸員が学校や地域に出向き、アーティストの作品を鑑賞する場をつくとともに、その制作意図や方法について知り、アーティストとともに制作する機会を提供することをねらいとしている。今回は、鳥取市内在住のアーティスト フナイタケヒコ氏の作品に触発されて、子どもたちが制作した作品とフナイ氏の作品を同じ会場に展示し、作品を見ながらアーティストとともに対話による作品鑑賞を行った。その後、制作や作品について聞いてみたいこと質問し、アーティストが応える場面もあった。



日時：2016 年 1 月 27 日（水）プレ授業 2 月 4 日（木）公開授業

開催校：鳥取市立高草中学校

対象：第 2 学年 62 名

担当：河本俊顕 教諭（エキスパート教員）

エキスパート教員の公開授業として依頼を受け、自作の油彩画 4 点を持ち込み、対話による鑑賞授業を行った。担当教員から、表現と鑑賞を一体化して扱いたいという要望があり、持ち込みの作品と同じ手法での制作指導も行った。生徒の中には、「写実的に描けないと美術は楽しめない」という先入観が少なからずあるため、筆触や絵の具の跡からもののかたちを起こす方法を体験し、多様な表現方法があることを伝えたいと考えた。



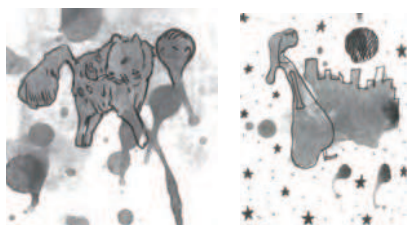
主な
出品
作品

佐藤真菜 《ひいなの日》 2008 年

佐藤真菜 《鎮守の森》 2014 年

佐藤真菜 《鎮守の森》 2015 年

佐藤真菜 《天体観測》 2015 年



生徒作品

日時：2016 年 2 月 12 日（金）ー2 月 15 日（月）

開催校：大山町立名和中学校・大山町立大山中学校

対象：大山町立名和中学校 第 3 学年・大山町立大山中学校 全クラス

講師：旅するムサビ 武蔵野美術大学 教授 三澤一実氏

武蔵野美術大学 日本画学科学生 8 名

名和中学校では、第 3 学年の美術科鑑賞授業として、武蔵野美術大学教職課程の学生の作品を鑑賞した。学生はファシリテーター、作家の 2 役に分かれて鑑賞を進め、生徒は本物の作品を見ながら、作品から感じとったことを言葉にするとともに、作者の制作意図や制作に関わるエピソードなどを直接聞いた。

大山中学校では、蔵野美術大学の学生が、大山中学校の教室の黒板全面に絵を描くことにより黒板を「ジャック」する「黒板ジャック」を行った。生徒は、週明け月曜日の朝、登校時に黒板に描かれた絵と対面する。朝の会で学生の話聞き、最後に黒板を消して終了した。



名和中学校鑑賞授業



大山中学校黒板ジャック

ーアーティストとつくろう！ー

20

平成 28 年度 「彫刻鑑賞 & 作品制作」 講師：梶村自得氏（米子市在住）

日時：2016 年 11 月 24 日（木） 5 校時・6 校時 14 時～15 時

開催校：鳥取市立面影小学校

対象：第 6 学年 75 名

本事業は、アーティストと当館学芸員が学校や地域に出向き、アーティストの作品を鑑賞する場をつくとともに、その制作意図や方法について知り、アーティストとともに制作する機会を提供することをねらいとしている。今回は、米子市在住のアーティスト 梶村自得氏を講師に、作品を前にした対話による鑑賞を行った後、木の枝や銅線などを使った作品制作を行った。



主な作品
梶村自得 《打つ棄する人》 2014 年
梶村自得 《光と影》 2014 年
梶村自得 《無題》 2005 年

ーアーティストとつくろう！ー

21

平成 29 年度 「紙コップ 10000 個であーと！」 講師：旅するムサビ（東京都小平市）

日時：2017 年 8 月 24 日（木）

開催園：中山みどりの森保育園

対象：幼児 28 名（年長 5 歳児）一般 8 名

講師：旅するムサビ 武蔵野美術大学 日本画学科学生 7 名

「旅するムサビ」で大山町に滞在制作中の学生が講師となり、紙コップ 10000 個を使用してワークショップを行った。最初は床に並べるだけだった子どもたちの活動は、次第に近くの友達と協力して高く積み上げ、塊としての形を作るようになっていった。



- ①「旅するムサビ」学生 7 名の自己紹介
- ②数カ所に分けて置いた紙コップ 10000 個を思い通りに並べる。
- ③子どもたちを別室へ移動させ、その間に紙コップの間に様々な色のライトを設置。別室に移動した 子どもたちは、紙コップ 1 個に自分の顔を描く。
- ④自分の顔を描いた紙コップを持って子どもたちは再入場。自分が住んでみたいところに自分に見たてた紙コップを置く。